

# ミカン生育情報

千葉県  
平成30年6月号

## 平成30年1～5月の気象

暖地園芸研究所における本年の1～5月の気象を表1に示した。月平均気温は、1月及び2月が平年並み、3月は平年より2.6℃高く、4月は平年より2.3℃高く、5月は第2半旬を除いて平均より高かった。1～5月の平均気温は11.7℃で平年、及び前年より1℃高かった。

降水量は2月及び4月で平年を大きく下回った。2月は平年の22%、4月は平年の40%であった。1月～5月の合計降水量は633mmで平年の88%、前年の111%であった。

日照時間は1月～5月全てで平年を上回った。1月～5月の合計日照時間は961時間で平年の116%、前年の98%であった。

5月の半旬別の気象については、平均気温は、第2半旬を除く5半旬で平年を上回った。月平均気温は18.7℃で、平年より1.0℃、前年より0.2℃高かった。

降水量は、第4半旬で降雨がなく、第1、第3及び第6半旬で平年を下回ったが、第2半旬が極めて多かった。月合計は230mmで、平年の132%、前年の200%であった。

日照時間は、第2及び第6半旬を除く4半旬で平年を上回った。月合計は203時間で、平年の115%、前年の89%であった。

表1 平成30年1～5月の気象（暖地園芸研究所）

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1		5.8	6.0	6.1	111	90	66	193	170	206
2		6.0	6.3	7.0	21	97	29	161	152	185
3		11.8	9.2	8.1	204	186	148	200	157	173
4		16.2	13.9	13.8	69	174	212	205	172	184
5	1	19.0	16.6	16.1	21	22	0	42	30	49
	2	14.9	17.3	18.4	110	26	13	18	28	31
	3	18.7	17.5	18.0	35	38	68	49	27	24
	4	19.9	17.8	17.7	0	25	0	41	28	36
	5	18.8	18.4	20.7	36	32	0	37	29	44
	6	20.6	18.8	20.0	28	31	34	16	35	46
5月平均/合計		18.7	17.7	18.5	230	174	115	203	177	229
1～5月平均/合計		11.7	10.6	10.7	633	722	569	961	826	977

## 樹の生育

暖地園芸研究所における本年の温州ミカンの発芽期及び開花期を表2に示した。

発芽期は、「興津早生」が4月1日、「大津4号」が4月6日であり、いずれの品種も平年より8～9日、前年より13～16日早かった。

開花盛期は、「興津早生」が4月26日、「大津4号」は5月3日であり、いずれの品種も平年より15～19日、前年より21～22日早かった。

「興津早生」の生理落果は5月中旬に始まった。

本年は裏年に当たるため、「大津4号」においては着花量が少ない樹が見られる。しかし、「興津早生」については平年並みの着花量がみられた。昨年は表年であったが、本年の樹勢は比較的良好である。冬期に強い寒波もなく、寒害による著しい落葉や枯れこみはなかった。開花期以降も天候に恵まれ樹及び果実の生育は良好である。

表2 発芽期及び開花期 (暖地園芸研究所)

種類	発芽期 (月.日)			開花期 (月.日)								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
興津早生	4.1	4.10	4.14	4.26	5.9	5.12	4.26	5.13	5.16	5.1	5.18	5.22
大津4号	4.6	4.14	4.22	5.1	5.13	5.14	5.3	5.18	5.24	5.8	5.23	5.30

平年：平成5年から29年の25年間の平均値

## 6～7月の栽培管理

**夏肥の施用** 早生温州（「興津早生」など）、普通温州（「大津4号」など）ともに6月上旬に夏肥を施用する。基準量は窒素、りん酸、加里を10a当たり成分量で、早生温州はそれぞれ5kg、7kg、7kg、普通温州はそれぞれ5kg、5kg、9kgである。遅効きしないよう即効性の肥料を使用する。中晩柑は品種ごとに管理が異なるため、特性を事前に調べ、こまめな施肥を心がける。

また、苗木に関してもこまめな施肥、及び、かん水を心がける。特に1週間以上降雨がない時や、乾燥しやすい園では、定期的に自身で土の状態を確認し、極度に乾燥している場合はかん水を行う。

**摘果** 摘果は2～3回に分けて行う。1回目の粗摘果は、早生温州では7月上旬、普通温州では7月中旬に行い、その後9月までに仕上げ摘果を済ませる。着果の少ない樹では粗摘果は控え、仕上げ摘果から行う。摘果程度の基準は、1果当り葉数で早生温州は30枚、普通温州は25枚である。

中晩柑の摘果は品種ごとに異なるため、事前に調べてから行う。温州ミカンとは葉果比が大きく異なるため、初めて摘果する場合は必ず葉果比の目安となる枝（葉枚数100～200枚程度のもので葉果比を合わせたもの）を作り摘果をする。

**病虫害の防除** ※防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

病虫害の発生は自身で園を見回り観察する。ミカンハダニ、果樹カメムシ類に関しては、併せて千葉県が発行する病虫害発生予報も参考にする。

**カメムシ類** 本年の果樹カメムシ類の発生は、暖地園芸研究所の果樹カメトラップにおいて、前回多発した一昨年よりも多い個体数で推移している状況である。

チャバネは6月に入って山間部から次第に下ってきているようなので、今後の発生には注意する必要がある。また、発生のしやすさは園ごとに異なるため、カメムシ類の動きの鈍感な朝や飛来が増加する日暮れ頃に園を見まわり、園への飛来が増加してきた場合は防除を行う。

**カタツムリ・ナメクジ類** 果実を加害するカタツムリ類やナメクジ類の樹への登上の阻止には、樹幹に銅線や銅板を巻く。また、隠れ場所となる不要な材木や石積みは撤去する。排水不良園では明渠等の排水対策を行う。

**ゴマダラカミキリ** ゴマダラカミキリ成虫は6～7月に発生が多いため、見つけ次第補殺する。発生が著しく多い場合は薬剤防除や、近隣の園と協力して広い範囲での微生物農薬による防除を検討する。

**ハダニ類** ミカンハダニは5月下旬から増加し、7月中下旬に発生ピークを迎える。防除にはマシン油乳剤(97%)150倍液を使用するが、7月以降に散布すると、果実の糖度が下がる場合があるので、遅れないようにする。夏期防除の判断は、ハダニが発生している葉が全体の葉の30%となった時を目安とする。ハダニの発生は高温・乾燥で助長されるため、天候への注意も怠らないこと。

**サビダニ類** 近年発生が常態化している。おおむね7月～9月の間、果実の上で生活するため、果実を加害する。果実1～2個の被害を見たら、直ちに防除する。ダニ類は農薬に対する抵抗性を持つことがあるため、同じ系統の殺ダニ剤を続けて使用することは避ける。また、薬剤に頼らない防除も検討する。

**そうか病** そうか病は、通風不良で降雨後に乾きにくい場所や、窒素肥料が効きすぎている園で発生しやすい。通風を良くし、施肥は適切に行い樹勢を良好に管理するように努める。多発園では、発芽期(新芽が1cm程度になった時)と落弁期での薬剤防除を徹底する。

**かいよう病** かいよう病は、発芽前～発芽期、開花前、落弁直後に防除を徹底する。多発園では、マシン油乳剤などとの近接散布に注意しつつ、幼果実期の梅雨時期や台風前の追加散布を心がける。ただし、薬害が生じる恐れがあるのでラベルを良く読んで使用する。

**黒点病** 黒点病は水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や農薬散布を行う。葉の上で結晶を作り効果を発揮するような農薬では、散布後すぐに降雨があるような日は散布を避ける。なお、農薬の登録内容が温州ミカンと中晩柑で異なるため注意をする。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961 ※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>